



第30回 碧鈴祭を開催しました！

大学祭実行委員長

保健衛生学部 放射線技術科学科 3年 中山 克拓

11月7日(土)に、千代崎キャンパス会場とZoom同時4回線配信のハイフレックス型による大学祭を在學生と教職員を対象に開催しました。

テーマは「絆 ～今だからこそ～」。今年度は春先からオンライン授業や課外活動の自粛によって、友人や先生方など日頃会えていない人たちが再び繋がり盛り上げられるような大学祭にしたい！との想いを込めて準備・実施を進めてきました。

催し物の数は例年より少ないものの、クラブ・サークルによる発表や、大学祭実行委員会の企画による「巨大パズル」・「BINGO大会」を開催。さらに、スペシャルゲストによるトークショーを体育館とZoom配信により行いました。

クラブ・サークル発表では、Zoom配信の視聴学生にも楽しんでいただけるよう、「見どころインタビュー」や「普段の活動紹介・部員募集コメントの発信」なども織り交ぜ、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った中で発表をしていただきました。

また、実行委員会企画の「巨大パズル」では、集めたパーツで一生懸命に問題を解き、正解する度にとても喜んでいた参加者の姿が非常に印象的でした。同じく「BINGO大会」でも、Zoomで声による参加が可能な形で実施したこともあり、一つひとつの数字に一喜一憂する声を通して、参加学生の楽しんでいる様子が伝わってきました。

例年は音楽やお笑いのライブで楽しんでいたゲストも、今年は他地域でライブハウスでのクラスターが問題となったため、本学ではトークショーに変更し、ゴルゴ松本さんによる「命の授業」を開催しました。トークショーでは、将来医療の現場で働く本学学生に対して、命の尊さや働き方の姿勢などをお話いただき、参加者からは非常に心に刺さる内容だったとの声も聞かれるなど大変好評でした。

このように規模は縮小しての実施とはなりましたが、特にクラブ・サークルの方には多くの制限をお願いする中で、それぞれで様々な工夫を凝らすなど沢山のご協力をいただき、例年にも引けを取らない碧鈴祭を実施することができました。

今回、大学祭実行委員長という役割を通して、多くの方々とコミュニケーションを取りながら一つの目標に向かっていくことの難しさや、やり切った後の達成感など、普段の大学生活では体験できないようなとても貴重な経験をさせていただきました。

碧鈴祭が終わるまでは楽しいことよりも辛いことの方が多かったかもしれませんが、支えてくれる人達がいたからこそ、この大学祭実行委員長という大役を果たせたと思います。

大学祭の開催にあたり、ご協力いただいた本学教職員・学生の皆さん、その他ご参加・ご来場していただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



第30回碧鈴祭における新型コロナウイルス感染症対策について

今年度の碧鈴祭は、新型コロナウイルス感染症の予防策を徹底して実施しました。

会場となった千代崎キャンパスでは、大学祭実行委員も含めた参加者全員が検温・フェイスシールドとマスクの着用・手指消毒・部屋の換気・ソーシャルディスタンスの確保等を意識するとともに、二重・三重のチェック体制で実施したことにより、開催から2週間以上経過しましたが（11月26日時点）一人の感染者も出ることなく無事に終えることができました。

例年は2日間開催し地域の方々にも参加いただいていたのですが、今年は1日に短縮し在学生のみを対象に実施しました。学内に留まる人数を最小限にするため、会場への入場者を制限して事前登録制による名簿管理や識別用リストバンドの着用を行うとともに、発表場所での感染対策としては、発表者と観覧者のエリアやテントを分け、向かい合う所にはビニールシートを設置するなど工夫しました。

また、在学生が自宅からも参加できるよう、碧鈴祭会場からハイフレックス型でのZoom配信を実施しました。

Zoom配信は今回初めての取り組みで試行錯誤を重ねて準備し、4種類（1. 発表者へのインタビューを中心とした「見どころ配信」/ 2. クラブ・サークル発表を余すことなくお伝えする「公演フル配信」/ 3. 好評をいただいた「ゲストによるトークショー」/ 4. 視聴者を対象とした「Zoom大BINGO大会」）を同時に配信し、映像の上でも楽しんでもらうことができました。

さまざまな制限がある中で知恵を出し合い、皆の協力によって「感染者を一人も出さない大学祭」を作り上げることができました。

＜学生課＞



2020年度医療人底力教育 底力実践Ⅲ「アカデミックフェア」を開催

医療人底力教育センター長 福田 八寿絵

1月14日(木)4時限にコロナ禍のためZoomにより、アカデミックフェアを開催しました。初年次の底力実践は、全学対象の科目で約670名の学生が学科の枠を越えた14クラスに分かれ、グループワークを行い、ともに学ぶ経験を持ちます。本年度の底力実践Ⅲの授業は、新型コロナの感染リスク低減のための遠隔授業と対面でのコミュニケーション、交流を取り入れる形での対面と遠隔を組み合わせたハイブリッドの授業展開となりました。

アカデミックフェアの目的は、初年次における底力実践の学習成果や学生の皆さんの成長を、底力教育に関わってくださった教職員のみならず、多くの皆様に知っていただくことにあります。各クラス担当教職員の評価による優秀者14名、学生評価による優秀者1名を表彰し、優秀者によるプレゼンテーションが実施されました。

各クラスの代表学生が医療福祉に係るテーマ、例えば高齢者の胃瘻造設、臓器移植、あるいは社会的な課題、例えばレジ袋の有料化、高齢者の運転免許返納など各自が興味関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行ってくれました。図表やイラストを入れるなど工夫をし、問題意識をもって意欲的に取り組んでくれたことがわかる素晴らしい内容でした。学生の皆さんが、今後も相互に切磋琢磨し、成長していってくれるのを楽しみに、更なる飛躍を期待しています。

ご協力いただいた教職員の皆様、ありがとうございました。



イルミネーション点灯式を行いました

12月4日(金)白子キャンパス1号館前にて、第12回イルミネーション点灯式を行いました。本年度は新型コロナウイルス感染症防止のため例年より規模を縮小しての開催となりましたが、会場に集まった皆さんでカウントダウンを行い、白子キャンパスが鮮やかな光に包まれました。

当日はボランティアスタッフがフェイスシールドを装着したり、参加者へソーシャルディスタンスの確保を呼びかけたりと、十分な感染症防止策をとりながらの開催となりました。参加した在学生たちは学科や学年の垣根を超えて仲を深めたり、普段あまり交流のない教員や職員の方とも親睦を図る良い機会となりました。



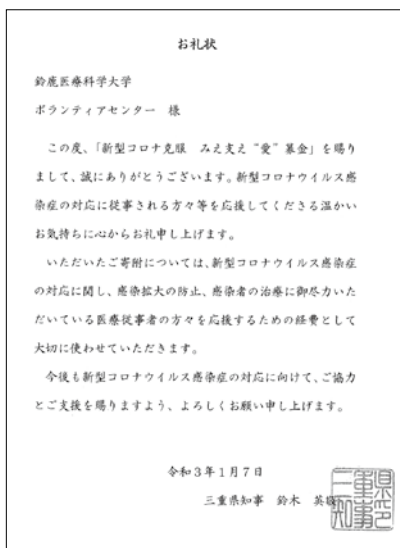
また、点灯式とあわせて、医療現場の最前線にいる医療従事者の方々が安全に業務を行うために必要な感染防止策の強化に要する経費や、医療機関での検査や治療環境

改善に要する経費として活用して頂くことで、私たちの感謝や応援の気持ちを医療の現場に届けたいと考え、三重県の「新型コロナ克服 みえ支え“愛”募金」の呼びかけを行いました。その結果、千代崎・白子両キャンパスを合わせ、75,895円もの募金が集まりました。1月7日付で三重県知事よりお礼状が届きました。皆さまの温かいご支援とご協力、ありがとうございました。

本年度は学内関係者のみの参加となり、地域の方々に足を運んでいただけなかったのは残念ではありますが、このような状況下で今年も実施できたことを感慨深く感じるとともに、大変嬉しく感じます。

とても寒いなかでの点灯式となりましたが、ご参加いただきました皆さまに感謝申し上げます。

＜ボランティアセンター・学生課＞

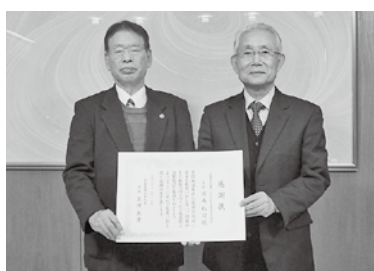


新型コロナウイルス感染症防止対策物品を寄贈頂いたSUZUKA産学官交流会へ感謝状を贈呈

12月24日(木)、新型コロナウイルス感染症防止対策物品を本学に寄贈頂いたSUZUKA産学官交流会に対して、豊田長康学長から同交流会の塚本祐司会長（AGF 鈴鹿株式会社・代表取締役社長）に感謝状を贈呈し、感謝の気持ちをお伝えしました。（当日は代理として、鈴木宏治副学長（大学院・研究担当）/社会連携研究センター長から、花井鍊太郎副会長に贈呈されました。）

SUZUKA産学官交流会は、鈴鹿市内の企業・団体と教育研究機関が交流を図り、鈴鹿市から新たな製品、技術、マーケティング等を創出することを目的として平成11（1999）年に創立された20年以上の歴史をもつ組織です。今年はコロナ禍で社会全体が自粛を余儀なくされる中、同交流会に加盟する組織の人々がコロナに負けずに活力を持続できるようにと、同交流会では感染防止対策事業に取り組むことを総会で決議し、手消毒用アルコール液、フェイスシールド・マウスシールド、マスク等の感染防止対策物品を市内の企業・団体、教育研究機関に寄贈することになりました。

本学では、フェイスシールド72個、マスク55箱、消毒液45本を受贈しました。フェイスシールドは令和3（2021）年4月に開院する附属桜の森病院に、マスクや消毒液は大学において、大切に活用させていただきます。



コロナの終息時期は未だ見えず不安は拭えませんが、本学の使命である「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を目指して活動することは、地域の皆さまへの社会貢献にも繋がるものと信じ、今後もコロナ予防には十分な対策を講じつつ、教育と研究活動の両輪を進めてまいります。

＜社会連携研究センター・研究振興課＞

附属桜の森病院 竣工式を挙行了しました

昨年3月着工した附属桜の森病院が完成し、1月18日に竣工式を挙行了しました。式には建設関係者の方々のご臨席をいただき、彌都加伎（みづがき）神社 遠藤宮司様に祈祷いただきました。高木理事長から感謝状をNTTファシリティーズ東海支店 西村支店長様と大宗建設 佐野社長様へ贈呈した後、両社より高木理事長へ贈呈目録が渡されました。

本年4月開院予定の附属桜の森病院は、緩和ケアに特化した医療機関として地域医療機関とのネットワークを強化し、地域の方々が安心して過ごせるコミュニティを目指し、多職種による包括的医療・ケアで患者さんとご家族が穏やかにお過ごしいただけるようQuality of Life (QOL)の向上を図ってまいります。



＜医療福祉事業管理室＞

コロナ禍における国家試験対策

看護学部 看護学科 准教授 田中 久美子

COVID-19の蔓延により、今年度は看護学科においても講義や実習の形態は、何度も変更となりました。国家試験対策も同様に、幾度となく計画の修正を余儀なくされました。例年であれば、4月には第1回目の模擬試験を行い、今年度受験対象者の課題を検討しつつ模擬試験やセミナーなどを進めていきます。しかし学生は登校自粛となり当初はオンライン受験が可能な模擬試験もなく、実施することが出来ませんでした。急遽、試験問題を作成し学生に配信、解答をメールにて提出してもらうよう試験を実施しました。また学習に関する情報提供をSUMS-POにて行いました。

5月中旬頃より、徐々にオンラインによる模擬試験受験が可能となり、模擬試験を約2か月遅れで実施しました。また自宅での自己学習ができるようオンラインによる個人学習用教材の導入や、状況に合わせて模擬試験がオンライン受験にも対応できるよう調整をしています。学生の反応が直接得られない状況が続き、学習への動機付けの難しさを感じました。

6月より対面授業が開始となりましたが、教室内のスペースを広くとる、分散して座席を配置するなど、感染予防策を検討したうえで実施することが必要となりました。国試対策セミナーは、大学への登校自体を心配する学生の声もあり、本人の希望を確認の上、講師にも協力いただき対面とZoomのハイブリッド方式で実施しています。

例年冬期は、大学に登校し自己学習を勧めているところですが、学習場所の確保や環境調整も難しい状況にあります。学生委員会内で相談を重ね、対象や人数を限定したうえで、登校し学習するよう指導をしています。今後は、試験当日までの感染予防策の徹底と健康管理、合わせてメンタルケアも必要になると考えています。この苦難を乗り越え、3月には嬉しい結果が得られるよう、支援していきたいと思います。

心理系資格取得とサポートについて

保健衛生学部 医療福祉学科 助教 上條 史絵

2020年3月に大学院医療科学研究科臨床心理学分野の第1期生11名が修了しました。彼らは、2018年に第1回の試験が行われた国家資格公認心理師制度が3年目を迎えた今年度、本学からの受験資格者1期生でもあり、初めての国家試験受験となりました。4月以降の試験となるので、就職1年目と試験勉強が重なる多忙とプレッシャーは相当だと想像します。そこに新型コロナ感染拡大が重なり、当初6月予定だった試験は12月に延期となりました。このような状況下で、修了生から6名が受験しました。2月の合格発表では、本学で学んだ成果を体現してくれるものと期待しています。また、従前からの心理援助資格である臨床心理士試験は、10月に筆記試験の1次、12月に面接試験の2次が行われ、こちらは見事、中村仁美さんが合格しました！！会場が東京だったこともあり、コロナ禍で今年度は多くの人が受験を見送りました。来年度以降は2つの資格の合格者はさらに増えていくと期待します。

医療福祉学科臨床心理学専攻では資格取得のサポートとして7月に勉強会を開催し、2019年度に合格した修了生平井智子さん（現任者資格による受験）の講演と「効果的な勉強法」についてのレクチャーを、助教の上條が行いました。大学院生を中心に計21名（オンライン9名）が参加し、この様子を修了生・大学院生へオンライン配信もしました。また、8月に臨床心理士の、11月・12月に公認心理師の模擬試験を実施し、現役の大学院生を含めたそれぞれ24名、2名、12名が受験して、本番への備えや実力チェックを行いました。

2022年春には、学部1年次から公認心理師資格取得カリキュラムで学んだ学生が卒業します。今後は地域への心理援助専門職の輩出を視野に、修了生、在院生に学部生を加えたサポートを行っていく所存です。

＜臨床心理学専攻＞

中井茉莉先生（伊勢赤十字病院・公認心理師）による 大学院セミナーを開催

医療科学研究科FD推進委員会 委員長
保健衛生学部 医療栄養学科 教授 若林 成知

大学院セミナーは、医療科学研究科兼担教員の研究を紹介することにより、お互いの研究分野の裾野を拡げ、かつ知識・経験の充実、研究レベルの向上などを目的に、平成21年9月からスタートしました。第98回を迎えた今回、12月7日(月)に伊勢赤十字病院の中井茉莉先生を講師にお招きし、オンライン方式で当セミナーを開催しました。中井先生はこれまで東日本大震災などにおいてこころのケア活動に参加され、現在は新型コロナウイルス感染症対応の中心メンバーとして、患者様・ご家族ならびに職員の心理社会的支援に従事されており、その活動がNHKでも紹介されるなど、大変ご活躍中の公認心理師・臨床心理士です。

講演内容は「新型コロナウイルス感染症対応における医療者のメンタルヘルス支援」という演題で、前半は院内感染に対する緊張感や感染拡大が長期化する中での疲弊、職員にみられる特有のストレス反応、さらに職員に対するMHPSS（Mental Health and Psychosocial Support：精神保健と心理社会的支援）の介入ピラミッドやグリーンケアなどについて紹介されました。後半は伊勢赤十字病院で立ち上げられたMHPSSチーム「Team COCORO」の活動内容（サイコロジカルファーストエイドを含む職員向け心理教育資料の作成と配付、最前線職員のストレスチェックと個別面接）について紹介されました。

当日は、教職員、大学院生の計45名の参加を得て、活発な質疑応答が行われました。コロナ禍という医療者にとっても危機的な状況において、多職種チームで対応することの大切さを感じさせる大変貴重なご講演でした。



公認心理師 中井先生

先輩鍼灸師による「2020年度キャリア講演会」の開催

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 准教授 本田 達朗

12月21日(月)に附属鍼灸治療センターで勤務する森田麻紀先生(7期生)による「キャリア講演会」を開催しました。

この講演会は毎年、先輩鍼灸師の経歴や経験に基づく話を通じて在校生に「鍼灸師になる」という気持ちを高めてもらうことを目的に開催している学科行事です。今年度は新型コロナウイルスの感染症防止のためリモートによる開催となりました。当日は1年生～4年生の8割以上の学生が参加し、熱心に先輩鍼灸師の話に聞き入っていました。

講演者の森田先生は卒業した後、訪問鍼灸を専門とする会社、鍼灸整骨院を複数経営する会社、そして本学の附属鍼灸治療センターという全く形態の異なる治療施設3か所で働く経験から、それぞれの「業務内容と特徴」、「患者・施術の特徴」などについて分かりやすく説明してくれました。特に4年生にとっては就職に関連する話を聞くことができ有意義だったと思います。講演の最後は在校生に向けてのアドバイスとして「普段の勉強と国家試験勉強」、「就職活動」について自らの学生時代を思い出しながら話をされ講演を終えました。



今回、新型コロナウイルスの影響で「キャリア講演会」をリモートで開催するという初めての試みでした。森田先生にとっては参加した在校生の反応などが判りにくく、講演し難い面もあったとは思いますが、特別な年の「キャリア講演会」ということで記憶に残るのではないかと思います。今回の講演で在校生たちの心に何かしらの変化が起こり、それが鍼灸師になりたいというモチベーション向上につながればと切に願っています。



二井英二教授 日本肢体不自由児協会・高木賞受賞

インタビュー・文責：保健衛生学部 理学療法学科 助教 多田 智美

この度、理学療法学科の二井英二教授が、日本肢体不自由児協会・高木賞を受賞されました。二井先生は、37年にわたり三重県立草の実学園、草の実りハビリテーションセンター（現三重県立子ども心身発達医療センター：以下センター）の医師、センター長として、脳性まひや骨系統性疾患、知的障がい児者の治療・研究に取り組まれ、その功績が認められて今回の受賞となりました。なお高木賞は、日本肢体不自由児者療育において顕著な功績のあった方に、日本肢体不自由児協会から年間1名にのみ授与される非常に栄誉ある賞です。



ーご受賞されて率直な感想を教えてください。

「受賞できたことに最初は恐縮しましたが、極めて名誉なことと大変嬉しく思っています。私が高木賞を受賞できたのは、センターで一緒にお仕事をさせていただいた方々、障害を持つお子さんやその保護者のお陰であり、改めてお礼を申し上げたいと思います。」

ー今回ご受賞につながられたと思われるご活動を教えてください。

「センターでの医師としての業績はもちろんですが、三重県肢体不自由児協会の理事や会長、三重県障害児就学指導委員会の副会長なども歴任させていただき、肢体不自由児者の医療面だけではなく、教育や福祉面での改善にも目を向けて取り組んできたことも評価されたのではないかと思います。」

ーこれから医療者となる本学の学生に向けてお言葉をいただけますか。

「臨床の場では、様々な患者様やご家族に、説明する機会が増えるかと思いますが、自分では丁寧に分かりやすく説明したつもりでも、十分に理解を得られないことが少なくありません。その時にたとえ理解を得られなかったとしても、自身の説明能力の不足が原因と考えることが大切です。常に相手の価値観をしっかりと受け止め、決して自らの価値観を押しつけないよう理解していただくまで適切に根気強く対応することが大切です。」

また、医療はサービス業でもあると思います。患者様やご家族にはいつも笑顔で優しく接することを心がけ、『〇〇さんの治療・検査・ケアを受けて良かった』『また〇〇さんに会いたい』と思ってもらえるような信頼される素敵な医療人を目指して精進してください。健康には十分留意されて、気負うことなく頑張ってください。」

<理学療法学専攻>

鈴鹿工業高等専門学校との共同研究を開始

薬学部 薬学科長 三輪 高市

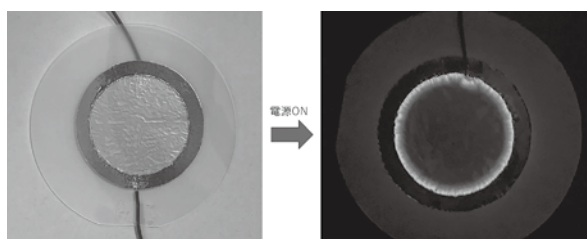
本学科の中山浩伸教授と平井一行助教は、令和2年12月より鈴鹿工業高等専門学校電気電子工学科の横山春喜教授（研究主事）と「プラズマ放電を利用した抗菌製品の開発」における共同研究を開始されます。“プラズマ放電”の産業応用は、エネルギーや光源として利用されているだけではなく、“抗菌力”を有することから環境・食品・医療分野への応用が期待されています。今回の共同研究では、横山教授が作成した大気圧プラズマ発生装置の商品化を見据えて、中山教授・平井助教が“殺菌性能”を的確に評価できる実験とそのデータ収集を実施します。



プラズマジェット

他学科でも鈴鹿高専との共同研究が進行中ですが、この共同研究もまた、1）本学と鈴鹿工業高等専門学校との

学術研究交流に関する協定の締結（平成30年2月16日）、2）定期的なSUMS-NITS医工連携研究会の開催、の成果の一つと言えます。今回の共同研究でも数多くの成果を創出し、企業などより多くのグループが参加するプロジェクトに発展していくことを期待します。また、研究だけでなく、教育も含めて数多くの交流の成果が生まれ、両校がますます共同的に発展していくことを願っています。



プラズマ表面電極

超音波検査室の充実

保健衛生学部 放射線技術科学科長 藤野 明俊

放射線技術科学科の活動計画重点分野の基本方針には、学科教育の特色と魅力づくりがあります。その中に教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善の取り組みにおいて「学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する」という内容があります。

当学科は設立以来、学内実習機器を最新の医療機器に更新し続けています。近年においては2013年1.5T超電導MRI、2015年にFPD搭載トモシンセシス対応診断用X線テレビ装置（島津製）、FPD搭載X線撮影装置（日立製）、2017年X線撮影装置（島津製）、2018年超音波診断装置2台（日立製・キャノン製）、2019年X線撮影装置（キャノン製）、2020年超音波診断装置2台（GE製・フィリップス製）と高額の医療機器の更新がなされました。



超音波検査室の様子

特に超音波診断装置の充実、学生への学内実習はもとより、国家試験のために欠かせないものです。今年の国家試験には超音波検査の問題（特に多く12/200問）が多く出題されています。しかし、臨床実習においては診療放射線技師が超音波検査を行っている施設は半数にも満たず、装置の特徴や画像解剖、画像診断を臨床実習で習得することができないのが現状です。当学科の学内実習では10人1グループで行っているため学内超音波装置の充実で2人で1台使えることによって十分な実習時間を担保でき臨床実習でできない分を補うことができ大変に喜ばしい限りです。

また、オープンキャンパスでは病院さながらの最新鋭の医療機器を見学し、当大学に入学したいと望む学生が多いため、今後も装置の更新を進めたいと思っています。

最後に装置の更新を推し進めていただいた大学に感謝致します。

360度画像（バーチャルリアリティ）による実習室紹介

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 野口 佑太

作業療法学専攻では、主に基礎作業学実習室、小児リハビリテーション室、生理学実習室、検査測定実習室を使用して学内実習を行っています。各部屋には最新の機器を設置し、充実した環境で実習を行うことができます。この実習室を学外の方に広く知ってもらうことを目的に360度画像（バーチャルリアリティ）による実習室紹介をホームページ上に公開しました。

バーチャルリアリティとは、日本語で仮想現実と訳されており、ゲームやマーケティング、教育研修場面など様々な領域で活用されています。バーチャルリアリティの利点は、その場に行かなくても擬似的に体験することができる点です。このたび公開したバーチャルリアリティによる実習室紹介では、千代崎キャンパスの作業療法学専攻の実習室へと足を運ぶことなく、自宅のパソコンまたはスマートフォンを操作することによって各実習室を360度見渡すことができ、機器の配置や部屋の雰囲気を感じてもらうことができます。



小児リハビリテーション室の様子

本学ホームページより>学部・大学院>保健衛生学部>リハビリテーション学科 作業療法学専攻>施設紹介からご覧ください

実際、どのくらいの方にご視聴いただいているかについて、Googleアナリティクスを用いて確認したところ、作業療法学専攻のページに初めて訪問した方の1/3の割合でバーチャルリアリティによる実習室紹介をご視聴いただいていることがわかりました。この結果から、バーチャルリアリティによる実習室紹介が作業療法学専攻のホームページに訪れる方にとって、魅力的なコンテンツであると考えられます。

今後も様々な取り組みを通じて、作業療法学専攻の魅力を発信していきたいと思っています。

<作業療法学専攻>

ハイブリッド形式で臨床検査学専攻の卒業研究発表会を開催

保健衛生学部 医療栄養学科 臨床検査学専攻長 熊取 厚志

本年度の臨床検査学専攻の卒業研究発表会は、4年生は新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら対面形式で発表を行いました。当専攻および管理栄養学専攻の3年生はZoomによる参加となりました。3年生にとって本発表会は来年度のゼミの選択のために重要な機会であることからオンラインでの参加となったことは残念です。多少の通信トラブルはありましたが、4年生の担任を中心に入念な準備を行って頂いたことから、質疑応答も活発に行われた充実した発表会になりました。本年度の卒業研究は、春の登校自粛のため実施期間が通常より2か月短い上に、3密を防ぐためにグループ単位で時間を分けてゼミ室を使用しなければならない、下級生の3密対策下での実習実施のあおりで実習室の使用時間も少ない、またそれぞれの実験や試験の内容に応じた感染防止対策を施さなくてはならないなど、実施自体において様々な問題に直面し対策を考えなくてはなりません。もちろん、並行して就職活動と国家試験勉強も行わなくてはなりません。この様に今年度の卒業研究は例年に無く実施が困難であったことから、辛い思い出の一つになったかとも思います。しかし、社会に出ると大なり小なり想定外の事態に度々直面し、それらに対して自ら考えて対応する能力が求められます。このコロナ禍での経験はきっと将来に役立つと確信します。

病院実習報告会について

医用工学部 医用情報工学科 2年 中川 悠紀

10月14日(水)「2年生医療情報セミナーⅠ」の一環として、先輩方の病院実習の報告会がZoomで行われましたので、拝見させて頂きました。

私たち2年生が日々学習している技術や資格の勉強が、就職後にどのような形で活用されているのか具体的な話を聞くことができて良かったと思いました。

今回の病院実習は先輩たちが「診療情報管理士」業務を中心に、スライドで説明をして頂きました。病院の様々な「医療情報」がどのように整理整頓され、且つ、利用されているのかの一端を知ることができました。

加えて印象に残ったのは、医療事務や診療情報管理士といった直接医療に関わらない人たちも、医療現場で必要とされているのは、情報管理や診療報酬の詳しい知識だけでなく、医学的知識や保険医療制度、更には接客を含めた幅広い知識を有する人材だということです。

私からの「診療情報管理士の専門性はどのように松阪中央総合病院で発揮されていますか?」という質問に対しては、「診療情報管理士を含め医療事務職の方々は、医学的知識に基づいた診療報酬請求業務がまず求められるということで、請求業務について詳しい人材は医師や看護師等、コメディカルの人たちからも非常に信頼されています」とのことでした。是非とも今後の学習に生かしていきたいと思います。

最後に、私の質問にも丁寧に回答いただきありがとうございました。



3年 柿本さんの発表資料

証明書コンビニ発行サービス(オンライン証明書発行)を開始しました

在学生と卒業生の皆様にご利用いただける証明書発行サービス(オンライン証明書発行)を開始しました。もう大学に来て発行することも郵送等のやり取りを行うことも必要ありません。最寄りのコンビニ(セブンイレブン、ファミリーマート、ローソン)の各店舗に設置されているマルチコピー機を利用して、24時間365日各種証明書が発行できます。是非ご利用ください!

※証明書の種類によっては、サービスの対象外となる証明書もあります。

また、メンテナンス等により、各種サービスを含めたメンテナンス時間や本学の運用において停止する場合があります。詳しくは大学ホームページをご覧ください。

<教務課>



在学生用



卒業生用

臨床実習を終えて

医用工学部 臨床工学科 4年 田中 亨於



今年度は、私にとってこれからの人生の方向性を決めるうえで非常に重要な一年間であると思っており、将来振り返ってみてもポイントとなる年になると思っています。

今年は、新型コロナウイルスの流行によりこれまでに経験をしたことがない日常生活、また自粛をふまえた様々な制限下での学生生活を送ってきました。臨床実習、就職活動、卒業研究、ウェブでの授業など初めての行事や取り組みが多々ありました。そのなかでも私が印象に残っているのは臨床実習です。私は、臨床工学技士になることを目指し、本学科に進学し3年次まで勉強をしてきました。臨床実習では、実際に現場で働いている臨床工学技士の

方々の業務を見ることができ、そこから多くの事を学べると非常に期待をしていました。しかし、臨床実習を行う予定であった医療施設が新型コロナウイルス感染症防止のため臨床実習生の受け入れが中止になり、急遽、他施設での実習になるなど実習前には非常に不安な気持ちになりました。臨床実習では実習2週間前から体調管理及び行動の徹底を行い、実習中も常に体調管理及び行動に気を付けて臨みました。指導して頂いた技士の先生方からは、時に厳しく指導され臨床工学技士としての役割について非常に多くの事を学ぶことができました。

実際に現場で実習させて頂いたことで、来年度からは自分が臨床工学技士としてまた医療従事者として、患者様のために働くこと、そして新型コロナウイルス感染症重症患者に用いる人工呼吸器やECMOの保守管理を自分が行うようになること、臨床工学技士は重要な役割を担う職種であることを再認識し気が引き締まるとともに、より一層モチベーションが上がりました。今後、国家試験合格とともに臨床工学技士として精一杯努力していきたいと思います。

鈴鹿中央総合病院の研修について

保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 3年 藤尾 明日香

11月19日(木)鈴鹿中央総合病院にて、医療ソーシャルワークの研修をさせていただきました。

研修の初めに、本学科の卒業生(医療ソーシャルワーカー)3名に院内の案内と説明をしていただきました。私たちが疑問に思ったことについて質問できる環境を作ってください、笑顔で一つひとつの質問に丁寧に答えてくださる姿を見て、患者様の不安な気持ちを軽減するためには、笑顔で伝わりやすいスピードで話すことが大切であることを実感し、日々の生活の中でも話し方や表情に気をつけたいと思いました。

院内見学終了後、薮下茂樹様(医療ソーシャルワーカー科長)の講義を受けました。薮下様は講義の中で、医療ソーシャルワーカー(以下、MSW)の価値についてクライアントの「ふくし」(ふだんの、くらしの、しあわせ)を大切にすると仰っていました。MSWには、聴く姿勢、共感する力や考える力、行動する力などが必要な技術になってくることを学び、その真摯な姿勢が深く心に残りました。

この度の研修において学ばせていただいたことを基に、日々の講義にしっかりと取り組み、ニュースや新聞記事から専門職としての知識を深め、視野を拡げていこうと思いました。また、次年度(5~6月)の医療ソーシャルワーク実習でご指導いただくMSWの諸先輩、他職種の皆様、そして患者様・ご家族の方々との関わりのなかで「ふくし」を大切に、他者と誠実に関わることをもたして、コミュニケーション能力を養い、専門職としてのスキルを身につけていきたいと思っています。



藤尾さん(前列中央)と薮下様(後列右から2人目)

教員による研究成果について

日本透析医学会の欧文誌 Renal Replacement Therapy 誌に掲載

人口の高齢化が進むなか、透析患者は年々増加しており、透析患者の約7割に何らかの認知機能障害を認め、透析中に認知機能が悪化する可能性のあることが報告されています。

こうした背景の下、リハビリテーション学科の野口佑太助教らは、軽度認知障害（MCI）を認める透析患者に対して、透析中に認知機能に刺激を与えるN-back課題を3か月間実施しました。その結果、患者の約8割に記憶機能や注意機能が向上することを認めました。

軽度認知障害がみられる透析患者に対して認知課題（N-back課題）を行うことにより記憶力や注意力が向上することを示した本研究成果は臨床上有意義であり、今後、透析患者の認知機能障害の改善と予防に資することが期待されます。

※ 軽度認知障害（MCI）：認知症の前段階であり、認知症ではないが軽度の見当識障害や物忘れを認める状態のこと。

※ N-back課題：短期保持と処理の両方を必要とするワーキングメモリ課題であり、対象者は画面に表示された図形の数を読みながら、記憶しておいたN個前の図形の数を読み答えるもので、負荷因子Nによって課題の難易度を調節することができる。

研究者：保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 野口 佑太

掲載論文：Noguchi Y., Ito M., Mushika M., et al. The effect of n-back training during hemodialysis on cognitive function in hemodialysis patients: a non-blind clinical trial. Renal Replacement Therapy. 2020; 6: 38. <https://rdcu.be/b6oim>

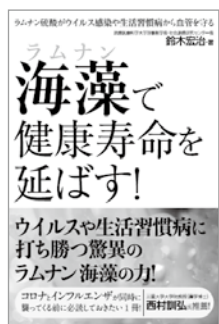
＜副学長(大学院・研究担当)鈴木宏治・研究振興課＞

本学教員の 新刊案内

ラムナン海藻で健康寿命を延ばす！

著 者：副学長（大学院・研究担当）鈴木 宏治

出 版：産学社（1,400円税別）



薬学科の鈴木宏治教授は、三重県の主要産物の一つである養殖アオサ（ヒトエグサ）に含まれるラムナン硫酸が持つ、ウイルス感染の抑制作用、血管の炎症抑制作用などをまとめた書籍を出版しました。

鈴木教授は、主に“血管と血栓止血”に関する研究を長年続けていますが、20年ほど前から三重大学や中部大学の研究者らと、ラムナン硫酸の動物やヒトの病態に及ぼす効果について共同研究を進め、血管内皮の炎症抑制作用、血中LDLコレステロール低下作用、ウイルス感染阻止作用などについて報告してきました。書籍では、これまでに発表した論文の成果を随所に織り交ぜて、ラムナン硫酸がウイルス感染や生活習慣病から血管をどのように守るかが詳細かつ簡潔にまとめられています。

同教授は「学術論文のままでは社会の人に知っていただけないので、研究成果をなるべく分かりやすく解説しました。県の産物であるヒトエグサの効能を知ってもらい、健康な生活を送ってもらえたら嬉しい。食べ物は治療薬ではないが予防にはつながると思う」と語っていました。新型コロナウイルス感染症の流行により、私達は健康に対する意識が変わってきたのではないのでしょうか。ステイホームの時間に是非、読んでいただきたい一冊です。

学生相談室通信

学生相談室カウンセラー 今村 七菜子

新しい年を迎えました。2020年は世の中が大きく変化した1年でしたね。どうしても外出が少なくなり、何もない時間をどのように過ごすかと困る方もいたのではないのでしょうか。生活習慣が崩れることによって、身体や心のバランスも崩れてしまうといわれています。皆さんは、自分の生活習慣を振り返ってみて、いかがですか？生活の中で困りごとが見つかったとき、その対処の仕方を2つ紹介します。

ひとつめは、「困りごとを解決する」ことです。何もしない時間がストレスだなあと感じたら、これまで読んでいなかった本を読んでみるとか、楽しめるような新しいゲームを買ってみるとか、行動をしてみましょう。ふたつめは、「困りごとを困りごとと思わない」ことです。何もしない時間は、今しかない贅沢な時間だと考えて、思い切りだらだらするのはどうでしょう。考え方を変えると、少し気分も変わってきませんか？

困りごとを解決したいと思っててもできないとか、考え方を変えてみても自分を許せないという場合もあります。そんなときはぜひ、学生相談室をご利用ください。相談室では現在、メール・電話・WEB会議システムを用いた遠隔相談も行っています。予約はホームページか、メール(gakuso@suzuka-u.ac.jp)にて受け付けています。ひとりで考えても苦しいときには、ふたりで考えると、少し気持ちが楽になるかもしれません。



予約メールフォーム



「お赤飯でゴマっちゃう」

前は、お赤飯の話を書き始めたけど、話が逸れて電気炊飯器の話になっちゃった。今回は、ホントにお赤飯の話だよ。おじさんは大好きなお赤飯をよく作るんだ。インスタントじゃないよ。ちゃんと小豆^{あずき}を煮てその煮汁で作るんだ。電気釜でね。そうそう、「小豆を煮て」と言ったけど、関東では、小豆じゃなくて、ササゲで作るんだ。子供の頃、おばあさんから「お赤飯の豆は、小豆じゃないんだよ。ササゲだよ」と教えられたのを今でも覚えている。ササゲなんて言っても、知らない人が多いかもね。ササゲは漢字で「大角豆」と書くらしい。世界中で栽培されていて、南米では繁栄と幸運を呼ぶ食物として、正月に食べる風習があるんだって。おじさんも、正直、小豆とササゲの違いがよくわからない。分からないなりに、小豆を使っている、「ホントは、ササゲじゃなきゃいけないんだ」と罪の意識みたいなものをいつも感じている。それじゃあ、何で小豆を使っているのかって？ そりゃあ、小豆のほうが柔らかいからね。なんて、見栄はっちゃって。ホントは、値段が安いからなんじゃないの。いやっ、見抜かれた。それもある、ある。大いにある。それがメインな理由かな。でも、繁栄と幸運を呼ぶんだったら、これからは、ササゲにしようかな。

小豆とササゲは、見た目には区別が付かないけど、小豆は皮が薄いので真っ二つに割れやすい。これが「切腹」をイメージさせるので縁起が悪いということで、

皮が厚くて割れにくいササゲが使われるようになったらしい。武家社会の風習の名残だね。関東風のウナギの蒲焼^{かばやき}が、腹開きせず背開きにするのと同じだね。縁起の問題だったんだね。

ところで、何でおめでたい時にお赤飯を食べるようになったのかって？ 日本では、古代より赤い色には邪気を祓う力があるとされ、赤米の蒸したものを神に供える風習があったらしい。そんな風習が赤米を栽培しなくなってからも、「お赤飯」という形で残り、お祝いなどの時に食べるようになったのだと言う。おじさんは、お赤飯が大好きだから、別にめでたい時じゃなくても作って食べちゃうんだ。まあ、おじさんにとっては、めでたい時に食べるんじゃないかって、食べる時がめでたい時ってことかな。

めでたいと言えば、昔、おじさんの友達が結婚式の引き出物のお赤飯を、付いていたゴマをかけて食べ、「塩と砂糖を間違えている」と大騒ぎをしたことがあった。彼は、赤飯にはゴマ砂糖をかけるのが当然だと思っていたらしい。彼は徳島県の出身で、鳴門地方では、お赤飯にゴマ塩ではなく「ゴマ砂糖」をかけて食べるんだとか。これには、おじさん、ホント驚いた。でも、それ、ホントの話なの？ お赤飯だけに、真っ赤なウソなんじゃないの？ いやっ、ほんと、ホント。疑われても、ホントのことだからゴマっちゃうよな。



令和4年(2022年)4月に 保健衛生学部 救急救命学科を開設します(設置構想中)

鈴鹿医療科学大学は、令和4年(2022年)4月に保健衛生学部救急救命学科の設置を目指し準備を進めています。

生命の危機的状況下にある重度傷病者に対し、病院に到着する前から医療をはじめる救急救命士。国家資格を持つプロフェッショナルとして、傷病者の生命予後に直結する医療行為を行います。

本学の救急救命学科では、病院前救急医学に関する諸科学及び救急・災害医学に精通し、博愛精神を基本に人の痛みや苦しみに目を向け、生涯にわたって継続的研鑽・学習に励み、専門的知識・技術の水準を維持する能力と態度を身につけ、救急指定病院(救命救急センター等)、救急搬送サービス、大規模災害等において活躍できる救急救命士を養成します。

スター・オブ・ライフ



1. Detection (発知)
2. Reporting (通報)
3. Response (出場)
4. On Scene Care (現場における処置)
5. Care in Transit (搬送中の処置)
6. Transfer to Definitive Care (医療機関へ搬送)



アメリカ合衆国運輸省幹線道路交通安全局がデザインしたマークで、人命救助に関わる職場で活躍する人々の守り神として、アメリカを中心とした世界中で救急医療のシンボルマークになっており、日本を含む世界各国で救急車の車体にもこのマークが描かれています。

ギリシャ神話に登場する名医アスクレピオスの持っていた蛇の巻きついていた杖の頂点から時計回りに、「Detection (発知)」「Reporting (通報)」「Response (出場)」「On Scene Care (現場における処置)」「Care in Transit (搬送中の処置)」「Transfer to Definitive Care (医療機関へ搬送)」という6本の柱により、医療の象徴を表しています。

名 称	保健衛生学部 救急救命学科
入 学 定 員	40人
設 置 場 所	白子キャンパス
取得可能資格	救急救命士(国家試験受験資格)
授与する学位	学士(救急救命学)



※上記の内容は予定であり、今後変更する場合があります。

＜企画広報課＞

行 事 予 定

2021年2月～5月

2月1日(月)・2日(火) 後期・冬期定期試験と解説
12日(金)・15日(月)～19日(金)
・24日(水)～26日(金) 後期・冬期 追・再試験
13日(土) 医療科学研究科 学位審査発表会
22日(月) 9月22日分振替休日
3月1日(月) 卒業判定会議
5日(金) 一般選抜B日程入試
6日(土) 大学院2期入試
12日(金) 学位授与式
16日(火) 進級判定会議
19日(金) 教育研究会
20日(土・祝) 春のミニ・オープンキャンパス

3月22日(月) 11月23日分振替休日
30日(火)・31日(水) 在学生健康診断(千代崎)
31日(水) 在学生ガイダンス
4月1日(木) 新入生オリエンテーション(学科)
1日(木)・5日(月) 在学生健康診断(千代崎)
2日(金) 入学式
3日(土)・4日(日) 新入生健康診断(千代崎)
6日(火) 前期・春期 授業開始
29日(木・祝) 木曜授業日
5月6日(木) 創立記念日・木曜授業日
15日(土)・22日(土) 補講日
27日(木)・28日(金) 春期定期試験と解説

※上記予定は変更になる場合があります。サマスポおよびホームページで最新情報を確認してください。